

2016年7月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、ユーラシア大陸北部で波列パターンがみられた。カムチャツカ半島付近では正偏差が明瞭となり、日本の東海上では負偏差となった。偏西風は、平年の位置と比べて、朝鮮半島付近～日本海では北寄りを、日本の東海上では南寄りを流れた。月平均海面気圧をみると、日本の南東海上で負偏差となり、太平洋高気圧の東日本付近への張り出しは平年と比べて弱かった。帯状平均した気温は、対流圏では広く高温偏差となり、北半球の中高緯度で明瞭だった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド洋東部、南太平洋赤道域の中部で活発、西部インド洋赤道域、太平洋西部、北太平洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬から中旬にかけて、太平洋からインド洋にかけて東進した。対流圏下層では、インド洋で低気圧性循環偏差が南北半球対でみられた。南シナ海～日本の南海上では高気圧性循環偏差となった。対流圏上層では、南シナ海付近で低気圧性循環偏差となった。南方振動指数は+0.6だった。

世界の天候

2016年7月の世界の月平均気温偏差は+0.44°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。7月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.68°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

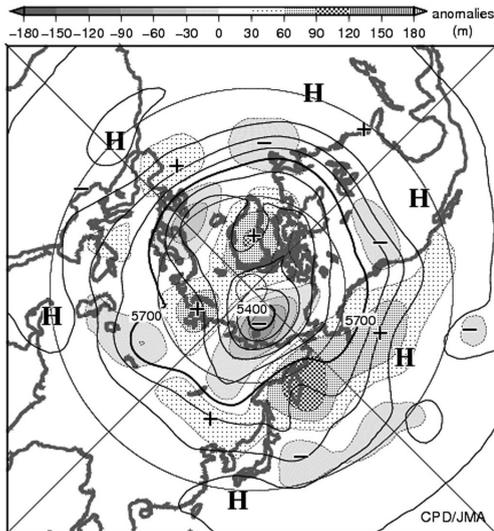
- 中国北東部～モンゴル中部で異常高温となった。
- イラン南西部～アラビア半島西部で異常高温となった。
- 南米北部で異常高温となり、ベネズエラ北部及びブラジル東部では異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

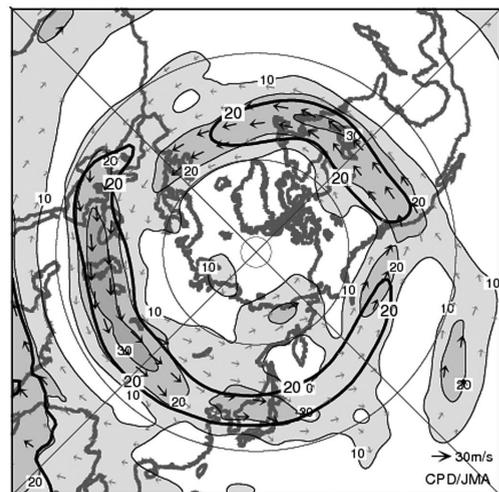
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



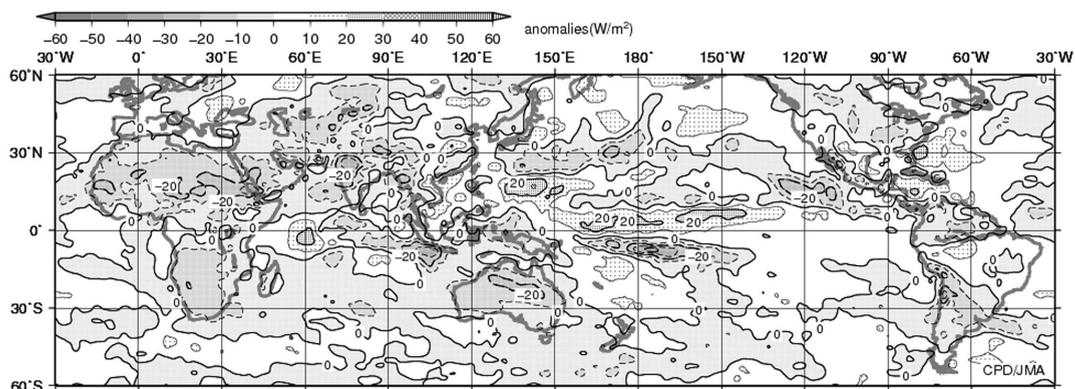
2016年7月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

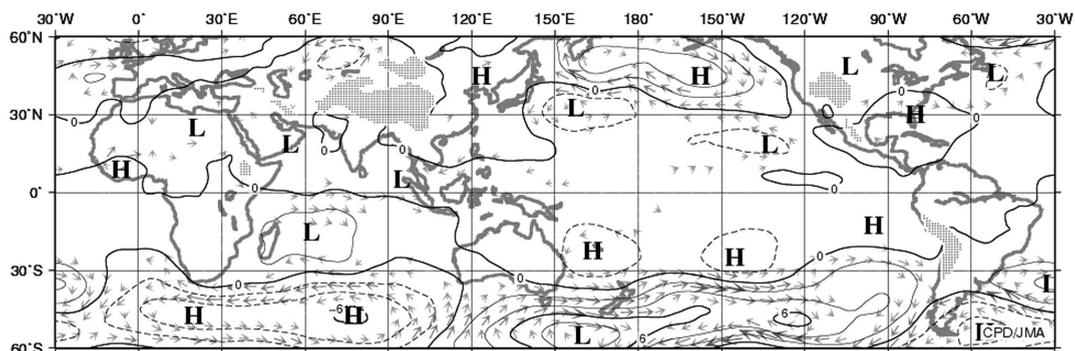


2016年7月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

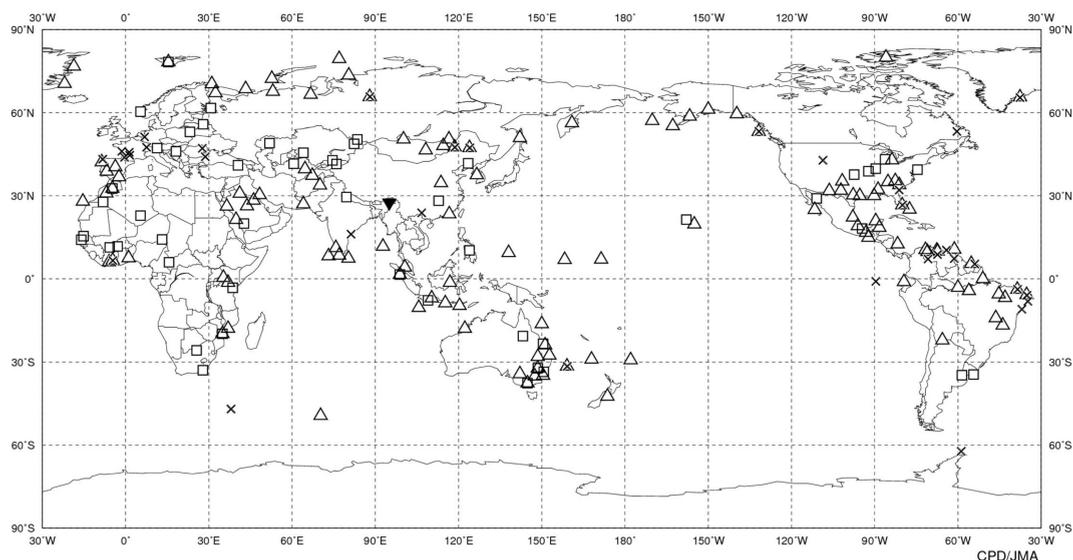
等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2016年7月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2016年7月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1981～2010年の平均値。



2016年7月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。